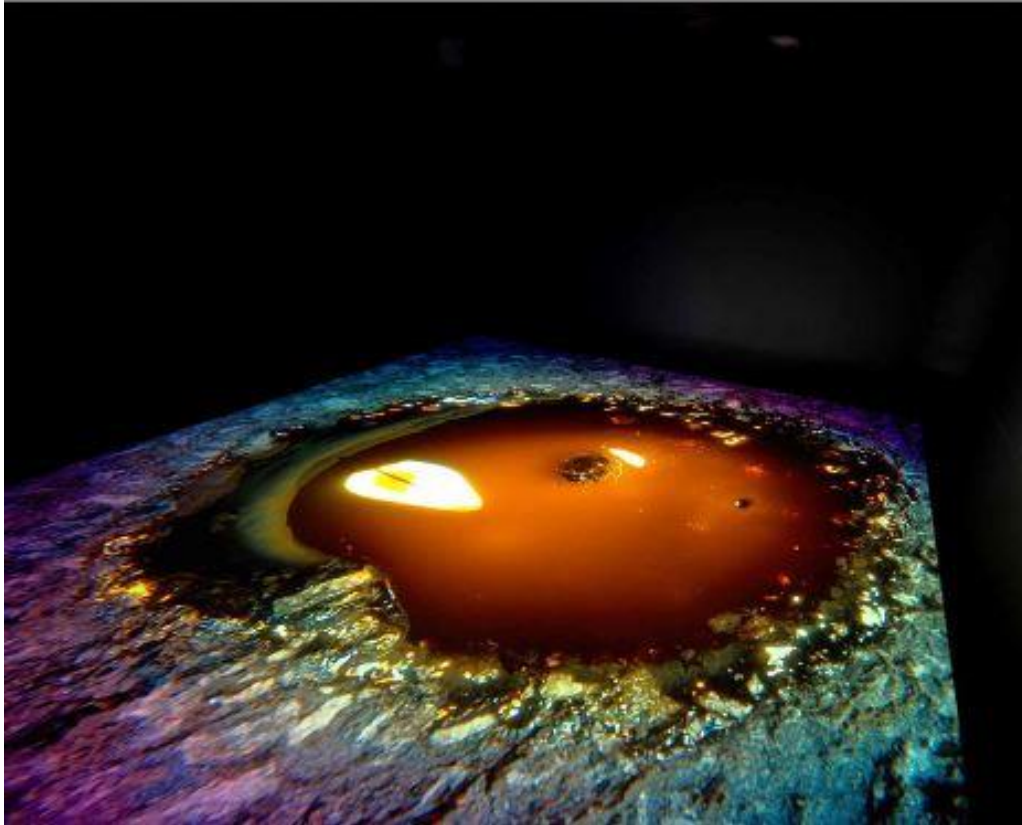


<大賞>



千葉 麻十佳 (CHIBA Madoka)

《Melting Hida Mountains》

1982年北海道生まれ。北海道拠点。

宇宙空間にある太陽から発する光を使い、火山噴火という地球の活動で生まれた火山石を溶かす。石は溶けるとマグマになる。マグマの再現は石の時間を戻す行為であり、土地の歴史を遡る行為である。映像という虚構のマグマの上に立つことは、今いる場所、自然、地球、宇宙などについて思考を巡らす契機となる。

<入江 経一 賞>



柴田 美智子 (SHIBATA Michiko)

《触れるもの、絶対に触れないもの》

1955年東京都生まれ。東京都拠点。

箱庭に見立てたキューブの内に、心の物語に現れるたくさんの猿達と、虚構を共有することで知らぬ間に閉じ込められた人間の雛型を置く。物語によって触れ得るリアルと、目に見えない檻によって引き離されてひび割れてゆくリアルは通底するものなのか？

<岩崎 秀雄 賞>



古屋 崇久 (FURUYA Takahisa)

《橋の形》

1991年山梨県生まれ。埼玉県拠点。

岐阜県は、言わずと知れた大きな一級河川が何本も流れている土地であり、橋の数も計り知れない。その為この土地では、橋に対する恩恵をより大きく受けているのかもしれない。美術館周辺・岐阜県内を中心に河川等で橋の形をリサーチ。橋の概念、形に関して考察しキューブに落とし込む。

<北村 明子 賞／寺内 曜子 賞>



奥中 章人 (OKUNAKA Akihito)

《INTER-WORLD/SPHERE: Over The Cube》

1981年京都府生まれ。京都府拠点。

キューブをはみ出すように膨らむ虹色透明風船。中に入ると鑑賞者は床に敷かれた水面の上に寝転がることできる。仰ぎ見ると、たゆたう鏡面世界が広がり、人の存在が、水、空気、光の膜を通じて環境に干渉し揺らめく。光源や角度で色合いが変化する作品の表象は、自己の変動性や多面性、人間の多様性社会を肯定し、また空気や水、光を通じて環境の重要性を暗示している。

<四方 幸子 賞>



北川 純 (KITAGAWA Jun)

《ネットショッピング》

1965年愛知県生まれ。山梨県拠点。

ネットショッピングという行為が日常化し、近年のコロナ禍によりその勢いは増加の一途を辿るのみである。巨大ダンボール箱が横転し、地面に沈み込んだ状態がキューブの規定サイズとなっている。その蓋の隙間から鑑賞者が出入りできる。内部空間では鑑賞者自らがシュリンク梱包された商品になってしまうような体験が待ち受けている。

＜森村 泰昌 賞＞



小孫 哲太郎 (KOMAGO Tetsutaro)

《NAGAMERU》

1974年東京都生まれ。埼玉県拠点。

いく本ものテープで遮られた空間。作品自体がフィルタとなって遮られているという、視覚と感覚が混在するような、場所。見るという事と見えるという事が変わりつつある今だからこそ、日常で使われている単純な素材でフィルタを作り、人の視点の内側と外側を、心の感情を、見たり、見られたり、そんな物事を感じてもらいながら楽しんでほしい。

＜山極 壽一 賞＞



INAGAKI MOMO (イナガキ モモ)

《JK in the street. (普通の女子高生)》

2006年愛知県生まれ。愛知県拠点。

ただのありのままの女子高生の「いま」を、小さな悲鳴とも言える
つぶやきメッセージと共に表現した記録映像作品。プロジェクター
で投影された3壁面から「いま」の「普通」の「JK」の「リアル」
な「日常」の映像と声が、キューブ内いっばいに広がり体感できる。